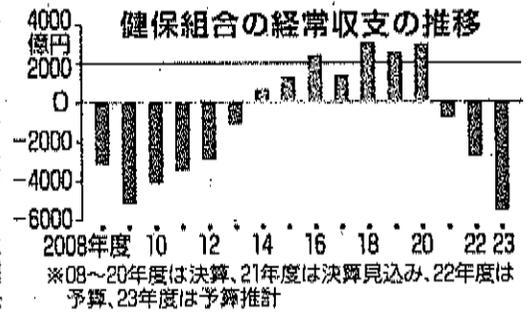


健保組合赤字 5600億円想定

23年度 保険料率は9.27%

健康保険組合連合会（健保連）は二十日、全国の健保組合の二〇二三年度予算推計をまとめ、平均保険料率は前年度比0.01%増の9.27%で過去最高だと発

健保組合の経常収支の推移



表した。一人当たり年間保険料は同一万二千百一円増の五十九万九千六百五十七円（企業と原則折半）。経常収支赤字額は前年度の約二倍の五千六百二十三億円で、リーマン・ショックが響いた〇九年度決算の五千二百三十四億円を上回り、過去最高を見込む。

二二年から団塊の世代が七十五歳以上になり始め、後期高齢者医療制度の財政を支えるために拠出する「支援金」が大幅に増えたことが背景にある。

健保連は今年四月一日時点で千三百八十組合が加盟する。赤字の組合は前年度比百三十増の千九十三で、全体の約八割。

保険料などの収入は前年度比2.7%増の八兆六千六百一十億円で、医療費などの支出は同5.9%増の九兆二千七百八十四億円。六十五歳以上の高齢者医療費などへの拠出は、同7.3%増の三兆七千六百七十七億円。うち七十五歳以上医療費への支援金が同9.9%増の二兆一千九百三十億円だった。

健保組合は主に大企業の社員や家族らが加入する。